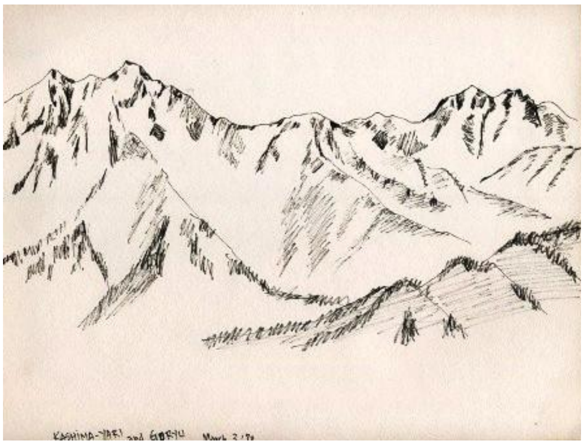
踏　み　跡　＜My　Mountains＞

北アルプス	スキー（鹿島槍国際スキー場）	No.147

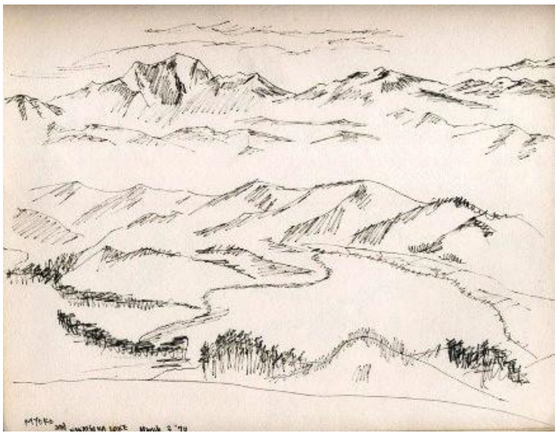
昭和４５年３月２日
八王子発 7 時 31 分　アルプス１号、松本で　きそ２号に乗り換えて簗場着は 12 時 15 分。
バスで鹿島槍国際スキー場に入って 13 時。
今回のスキー行の目的のひとつは勿論スキーであるが、もうひとつは鹿島槍を中心とした後立山連峰の山々を眺めることにもある。一般にスキーと言うとスキーだけに留まるのが世の流行りのようであるが、白一色に塗られた風景の中に何かを見つけようとする人はどの位いるだろうか？
他に目的がなくただスキーをすることだけが目的であるがゆえに、スキーウエアの流行などができたりするばかりなのではなかろうか？
ここ鹿島槍国際スキー場も、実はその名のとおりの眺望が得られるところなのだ。滑るだけで帰ってしまうのではあまりにも勿体ない絶好の眺望の場所なのだが・・・・・。
左から右へと首をゆるやかに動かして行くと、爺ケ岳、布引岳、鹿島槍、五龍、唐松・・・・、午後の陽ざしに細かな陰影を見せる峰々。それらにアクセントをつけるいくつかの鞍部のくぼみ。空は冬山特有の紺色の布を広げたような深み。
眺めの点では巻機山や越後駒が楽しめる石打に比べても決して劣ることはない。
ツエルトの中でろうそくを頼りにエアマットを敷いた生活・・・・。これに慣れた者にとって、ロッジの温かな食事とベッドの夜はまるで別世界を思わせる。

昭和４５年３月３日
昨日に引き続きスケッチブック入りのザックを持参して、何枚か描きながら殆どのゲレンデを滑り歩き、昼食後のバスで帰途についた。
帰りの電車の中でスケッチブックを開いてみた。冷静に見直してみると、あの迫力の鹿島槍や五龍も雪の原の青木湖や中綱湖もあまり大したスケッチになってはいない。しかし、それぞれのページの一隅に何となく満ち足りた気持が漂っている感じがする。それは、一般の流行とはちょっと違ったスキー旅行をしようとした異端者の満足感だけかもしれないが。

以上



＜鹿島槍と五龍＞



＜中綱湖の上に妙高連峰が＞